

# E M I I R

エンロールメント・マネジメント研究所

Institute for Enrollment Management and Institutional Research

## エンロールメント・マネジメントとIR 第1集

特集：大衆化した大学における学修とその測定  
—単位制度と学修時間を中心に—

2020年3月



大正大学

スガモで育む日本の未来。

## 目次

■ 大正大学 EM 研究所研究紀要『エンrollment・マネジメントと IR』巻頭言 大正大学 理事長特別補佐／質保証推進室長／エンrollment・マネジメント研究所 顧問 上杉 道世……	2
■ 特集 「大衆化した大学における学修とその測定 ―単位制度と学修時間を中心に―」…	5
学修時間と学修成果に関わる政策議論に関する考察 ―単位制度の運用への支援の検討のために― 森 利枝 (大学改革支援・学位授与機構) ……	6
授業外学習時間の測定と課題 中島 ゆり (長崎大学) ……	17
数値による成果主義と IR「アウトプット指標の効用とその先に広がる IR の豊穡」 加藤 毅 (筑波大学) ……	31
キャリア初期における大学教育の効果 ―新卒女性看護師の事例に対するブール代数的アプローチ― 日下田 岳史 (大正大学) ……	42
地域と学習者と共に実践するアセスメントと新たな教育的価値の創出 ―岡山大学との協定事業「参加型地域教育アセスメントの共同開発」中間報告 出川 真也 (大正大学) ……	57
数値による成果主義は IR にとって真に追い風か 福島 真司 (大正大学) ……	65
■ 第 13 回 EMIR 勉強会資料 テーマ「数値による成果主義と IR の間 (はざま)」…	73
米国大学 IR の最新事例：米国大学ではなぜ卒業率が重要なのか ～ EAB (Education Adversary Board) のインパクト～ Jack Mahoney (ニューヨーク州立大学オルバニー校) ……	74
■ 投稿論文 ……	97
大学で経験した授業の職業的意義 ―社会人第 2 回調査の結果から 二宮 祐 (群馬大学) ……	98
論文執筆要領 ……	112

# 大正大学EM研究所研究紀要

## 『エンrollment・マネジメントとIR』巻頭言

大正大学 理事長特別補佐 / 質保証推進室長  
エンrollment・マネジメント研究所 顧問  
上杉 道世

今日の我が国の大学は、18歳人口の急速な減少、世界の課題が国内の課題と直結するグローバル化の進展、AIをはじめとした科学技術の際限のない進展などの大きな変化に直面しています。これに対応するために、大学も、教育の質保証の展開、ガバナンスの確立など、教育研究と経営の充実に大学の存続をかけて取り組む必要があります。

その際に重要なことは、中教審などの国の施策に配慮するとともに、大学の実態を把握し、それに根差した政策立案を進めていくことです。教学と経営のマネジメントを回していくためには、学内外の情報・データを的確に把握し、業務の適切な遂行に反映させるよう、執行部および全学の部局と協力してIRの体制を組んでいく必要があります。

日本の大学の学生対応の特徴は、情報・データに基づく施策とともに、教職員と学生の直接の触れ合いによる導きの両者を重視して進めていることであり、大正大学EM研究所の活動の特徴もまたそこにあります。これは日本の大学の将来の方向を示す取り組みであり、この度の研究紀要の刊行に当たり抱負として述べておきます。

### ① EM研究所の概要

大正大学は、TSR (Taisho University Social Responsibility) の理念に基づき、学生の入学前から卒業後までの一貫した情報を収集・分析・提供し、教育・研究・社会貢献等について企画・立案・支援を行うことを目的とした「エンrollment・マネジメント研究所」(Institute for Enrollment Management and Institutional Research)【略称:EMIR研】を2017年10月1日に開設いたしました。

学生の入学前から卒業後までの一貫した情報を収集・分析・提供し、教育・研究・社会貢献等の企画・立案・支援を行い、本学のみならず大学教育全体に貢献できるよう積極的に広く情報提供いたします。

また、多面的な学習成果に関する研究にも取り組み、大学教育だけでなく高等学校への研究成果の提供を行い、高大連携の推進に寄与する事をめざします。

米国において最初にEMを提唱したJohn Maguire博士(Maguire Associates Inc. 創始者)の全面的な協力を受け、国内外の先進事例を持つ大学の皆さま、大学団体の皆さま、ICT・調査分析・教育関連の企業の皆さま等の幅広いナレッジを集積し、大学のEMやIRに留まらず、高等学校、教育関連機関の進展に寄与するための研究を進めてまいります。

### ② EM研究所の沿革

大正大学におけるIR (Institutional Research) やEM (Enrollment Management) の取り

組みは、以下のような機関を中心に、機能強化を図りつつ、現在まで発展してきました。

2013年11月 IR 準備室設置（初代室長 山本雅淑）

2014年4月 総合 IR 室設置（初代室長 山本雅淑）

2015年4月 IR・EM センター設置

（初代センター長 山本雅淑、第2代センター長 福島真司）

2017年10月 エンrollment・マネジメント研究所設置（初代研究所長 福島真司）

この間、本学 TSR マネジメントへのデータ支援、定例的な学内調査の有機的な統合と体系化、IR システムの構築および学内公開によるデータをマネジメントに活かす組織文化の醸成、学内からの調査分析要望の拡大等を実現し、本学の大学改革に対する積極的姿勢を学内外に示す象徴的な機関として、EMIR に関する取り組みを実施してきました。

### ③ EM 研究所と大正大学 TSR マネジメントとの関わり

大正大学には、IR に関係する組織が、2 部署あります。IR・EM センターは、学校法人大正大学の質保証推進室に位置付けられ、全学的な調査やその分析を担当しています。分析結果を学内共有する「大正大学 IR システム」の運用もここが担当しています。一方で、エンrollment・マネジメント研究所は、大正大学の附置研究所としての位置付けにあり、IR・EM センターの知見に加え、学外との連携による様々な知見を加えて、EMIR の研究や実践を行っています。

なお、「IR 関連組織の関係図」の通り、EM 研究所とは、原則週1回の「IR 定例会」を開催しており、常に協働する関係にあり、2019 年度からは、IR・EM センターの全学調査のデータに、EM 研究所の分析の知見を織り交ぜて、学内にデータ共有する「データサミット」を共同開催しています。

### ④ 研究紀要『エンrollment・マネジメントと IR』の役割と期待

3 年目を迎える EM 研究所では、紀要『エンrollment・マネジメントと IR』を発行することとなりました。毎刊、特定のテーマを定めて関連する研究者の皆様に依頼する特集論文と、自由な投稿を求める査読付の論文で構成することにしています。

今回の特集論文のテーマは、「大衆化した大学における学習とその測定—単位制度と学修時間を中心に—」です。このテーマは、昨今の高等教育で話題となっている内部質保証や、それに関わる学修成果の可視化を取り上げたものであり、2019 年 9 月に EM 研究所が主催した第 13 回 EMIR 勉強会のテーマ「数値による成果主義と IR の間（はざま）」とも通底する重要なテーマであります。

ところで、IR についての査読付き論文集については、大学評価コンソーシアムの情報誌『大学評価と IR』が、日本の高等教育機関の IR の推進に大きな寄与をしてきました。EM を含めた論文集は初めての試みではありますが、IR でも、EM でも、大学内のデータを扱う研究にはセンシティブな部分があることは事実です。一方で、さまざまな大学のケースが可能な形で公表され、内容が充実することによる高等教育機関のマネジメントへの寄与は大きいと考えられます。投稿論文については、創刊号への投稿は 3 本ではありましたが、今後このような研究を日本の高等教育機関でも推進するために、今後ともみなさまからの投稿を期待したいと思います。





## 特集

# 「大衆化した大学における学修とその測定 —単位制度と学修時間を中心に—」

大学の大衆化に伴い学生の多様化が進むにつれて、基本的な学習習慣が不十分な学生に対する教育のあり方が課題とされるようになってきた。他方では、単位制度を制度的前提とする大学教育の形骸化が指摘される状況にもあり、単位制度それ自体の問題点を指摘する声もあるが、単位制度の実質化を求める声が増えつつあるように感じられる。—制度的理念と現実との間の齟齬をどのように解消していけばよいのか—、戸惑う大学人は少なくないはずだ。

大衆化した大学において、実現可能かつ持続可能な教育のあり方とは一体どのようなものなのか。日本において「エンrollment・マネジメント」を冠する研究所が初めて設置され、その紀要を創刊するにあたり、この問いに向き合い、答えを探ることが、大衆化を所与とする状況の日本の大学におけるエンrollment・マネジメント研究の第一歩としてふさわしいとの思いから、本特集テーマを設定した。

なお、本特集テーマは、当研究所が2019年9月6日に開催した第13回EMIR勉強会のテーマ「数値による成果主義とIRの間（はざま）」と、通底するテーマである。そのため、当日の講演内容を踏まえた論文や資料も、本特集では取り上げている。

今後とも、本特集テーマについては、多くのご関心ある皆様と議論を継続したいと考えている。